

利尻島におけるヨタカの産卵例

佐藤雅彦¹⁾・藤巻裕蔵²⁾

¹⁾ 〒097-0311 北海道利尻群利尻町仙法志字本町 136 利尻町立博物館

²⁾ 〒072-0005 美唄市東 4 条北 2 丁目 6-1

Findings of Jungle Nightjar Eggs on Rishiri Island

Masahiko SATO¹⁾ and Yuzo FUJIMAKI²⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Higashi 4, Kita 2-6-1, Bibai, Hokkaido, 072-0005 Japan

Key words: *Caprimulgus indicus*, eggs, Rishiri Island

利尻島の森林では、夜間、コノハズク、トラツグミなどの声は比較的良好に聞くことがあるものの、ヨタカ *Caprimulgus indicus* の声を耳にすることはなく、その生息についての記録も極めて少ない。利尻島内の鳥類相をまとめた西村 (1963) によると、本種は、夏鳥であること、繁殖営巣の確認がされていること、5月下旬から10月下旬の期間の来鳥であることが記されているものの、具体的な観察記録は残されていない。小杉 (2000) では6月および7月の記録が示されており、このうちの1件についてはヤマナイ沢 (標高500m以上の地点) における著者自身による目撃記録だという (小杉私信)。なお、礼文島では宮本 (2016) * が稀な夏鳥として報告をしている。

2019年6月5日、筆者の一人である佐藤のもとに匿名の問い合わせが寄せられた。内容は、利尻島南部のおよそ標高400mの河原でエゾライチョウのような鳥が飛び立ち、その場所に行ってみたところ2個の卵が残されており、可能であればその鳥の名前を知りたい、というものであった。残念ながら飛び去った鳥の写真は撮影されておらず、残された卵の写真が1枚あるのみであった (Fig. 1)。

この目撃事例は2019年5月24日のことであり、卵の大きさは市販されているウズラの卵程度だったという。この鳥が飛び立った直後に写真撮影が行われたため、残された卵は抱卵中のものであることはほぼ確実で、(1) 巣材などもなく、(2) 植生に被覆されていない比較的開放空間の岩の多い地面に直接産卵されていたこと、(3) 卵はウズラの卵程度の大きさで (卵の平均計測値は、ウズラで長径28.8mm, 短径22.4mm, ヨタカでそれぞれ32.4mm, 23.1mm (清棲, 1978) で、両種の卵



Figure 1. Eggs laying on the rocky ground near the dry riverbed. 2019.v.24.

の大きさは似ている), (4) クリーム色の下地上に, 薄い暗色と茶褐色の斑が大小不規則に入ることでもだら模様を呈し, (5) 産卵数が2卵であるなどの特徴から, これらはヨタカの卵であると推測された(藤巻, 1973; 山階, 1980). 一方, エゾライチョウは利尻島には自然分布せず, かつて北海道猟友会による放鳥が行われた事例はあるが(北海道新聞, 1990), それらは定着せず, これまでも島内における生息は確認されていない. また, エゾライチョウは木の根元などにはっきりとした巣を作るほか, 長径38~39mm, 短径28~30mmの卵を平均7個産み, ウズラやヨタカの卵より大きく, 卵殻は淡いオレンジ色の地色に細かい褐色の小斑がまばらにあるため, 目撃された鳥とその卵はエゾライチョウとは異なる(藤巻, 1998).

ヨタカは準絶滅危惧種であるほか, 北海道内でも1980年代から生息数が減少傾向にあるとされており(藤巻, 2012), 特に北海道北部や東部では生息数が少ない(Kawamura *et al.*, 2016). 利尻島内での具体的な繁殖が確認されたのは非常に珍しく, 近年では初めての例と思われる. 情報をお寄せいただいた匿名の方, 利尻礼文両島における本種の目撃記録のご確認をいただいた小杉和樹氏(利尻町), 宮本誠一郎氏(礼文町)に心からお礼申し上げる.

参考文献

藤巻裕蔵, 1973. ヨタカの営巣2例. 鳥, 22: 30-32.
藤巻裕蔵, 1998. エゾライチョウ. 帯広畜産大学

野生動物研究室. 109pp.

藤巻裕蔵, 2012. 北海道鳥類目録改訂4版. 補遺. 極東鳥類研究会. 美唄. 78pp.

Kawamura, K., Y. Yamaura, M. Senzaki, Y. Yabuhara, T. Akasaka & F. Nakamura, 2016. Effects of land use and climate on the distribution on the jungle nightjar *Caprimulgus incicus* in Hokkaido, northern Japan. *Ornithological Sciences*, 15: 203-212.

清棲幸保, 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑II. 講談社. 東京. 654pp.

小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道島の野鳥: 150-155. 北海道新聞社. 札幌.

マイケル・ウォルターズ, 2006. 世界「鳥の卵」図鑑. 新樹社. 256pp.

北海道新聞, 1990. たくましく育てほしい エゾライチョウ11羽を放鳥. 1990年11月4日. 日刊(留萌・宗谷版). 北海道新聞社.

宮本誠一郎, 2016. 礼文島の鳥類(1). 利尻研究, (35): 67-82.

西村弘, 1963. 利尻. 礼文島野鳥棲息状況調査記録. 自刊. 25pp.

山階芳磨, 1980. 復刻版. 日本の鳥類と其の生態(旧北区の部)第2巻. 出版科学総合研究所. 1080pp.

*宮本(2016)の観察日は2004年9月23日になっているが, 著者に確認したところ2003年4月23日の誤りであった.